

6. インフルエンザに関する重要・不足情報（FA）

①重要な情報

【重要な情報】としては88件寄せられており、「流行に関する情報」(40.9%・36件)と「予防に関する情報」(37.5%・33件)が多い。流行関連では「流行するウィルスの型」や「流行の状況」など、予防関連では「予防接種」や「ワクチンの供給体制」「予防方法」などが主な内容である。

また件数としては少ないが、「インフルエンザに関する正しい知識」を希望している施設もある。

②不足している情報

老人保健施設では【不足している情報】として38件を挙げているが、その過半数は「予防に関する情報」(52.6%・20件)である。その中でも「有効なワクチンの情報/供給状況」を中心とした予防接種関連の情報について不足感が強い。

また、入所している高齢者自身が情報をキャッチできるよう、内容だけでなく手法としても「高齢者にわかりやすい情報」が不足していることが指摘されている。

◆インフルエンザに関する情報(FA)

①重要な情報……88件		②不足している情報……38件	
◇流行に関する情報	36件	◇流行に関する情報	8件
・流行するウィルスの型	18	・流行の状況/地域の発生状況	5
・流行の状況/集団感染の有無	14	・流行の時期/感染ルート	2
・流行の時期/きざし	4	・流行する型	1
◇予防に関する情報	33件	◇予防に関する情報	20件
・予防接種/効果/ワクチンの情報	16	・有効なワクチン/作成量	11
・予防接種後の対応	1	・予防接種の副作用	3
・予防方法・対策	9	・予防接種の説明・すすめ	2
・生活環境の整備/生活指導	3	・予防/高齢者のできる予防方法	3
・予防薬・治療薬に関する情報/	2	・予防薬	1
・ウィルスを持ち込まない工夫	2		
◇症状・治療に関する情報	10件	◇症状・治療に関する情報	4件
・症状/初期症状/医師の見立て	8	・症例情報/症状	2
・治療	2	・治療/感染者が出た場合の対処法	2
◇その他	9件	◇その他	6件
・的確な情報/早めの情報	7	・正しい情報/早めの情報	3
・インフルエンザに関する正しい知識	2	・高齢者にわかりやすい情報	2
		・他施設での取り組み	1

II. インフルエンザの予防の状況

1. 入所者や家族からのインフルエンザ予防に関する質問・要望（FA）

入所者やその家族から寄せられた質問・要望は37件で、「ワクチン関連」(18件)が最も多い。その中では入所者が高齢者のため、特に「ワクチンの副作用」に対する不安が多く、それに関する質問がでている。またマスコミで騒がれたこともあって、「ワクチンの不足」についても質問があった。

次いで「予防接種関連」(12件)が多く、「施設での接種の有無」や「接種時期」についての問い合わせや、「予防接種をしてほしい」との希望が多かった。

この他、「施設内での感染状況」や「施設内での感染防止策」などについても質問が出ています。

◆入所者や家族からの質問・要望（FA：37件）

◇ワクチン関連	18件
・ワクチンの副作用／接種したら状態が悪化するのではないか	13
・ワクチンの不足状況	3
・ワクチンは本当に効果があるか	2
◇予防接種関連	12件
・施設での予防接種実施の有無／時期について	6
・予防接種の希望	5
・予防接種費用の負担	1
◇施設のインフルエンザ対策・他	7件
・施設内でのインフルエンザ感染状況	2
・施設内での感染防止策(隔離など)	2
・日常の予防行為について	2
・かかってしまった時の対応	1

2. 予防接種（ワクチン）の実施状況

①入所者

入所者に対する予防接種を「実施した」施設は81.1%であり、全入所者の3分の2が受けている。施設レベルでの実施割合は施設規模による差はあまりなく、〔小規模施設〕〔大規模施設〕ともほぼ同程度であるが、入所者レベルでは〔小規模施設〕(77.4%)の方が〔大規模施設〕(63.3%)より高い接種割合であった。

②職員・スタッフ

職員・スタッフに対しては、7割の施設が予防接種を「実施している」(70.5%)と答えているが、入所者の場合に比べてやや低い実施状況であった。接種した職員レベル(65.0%)では、入所者の場合とほぼ同程度の実施状況である。しかし、インフルエンザの感染経路を考えると、今シーズンの老人保健施設における職員・スタッフへの予防接種実施は十分とは言えないように思われる。

施設規模による実施割合は、僅差ではあるが〔小規模施設〕(75.0%)の方が〔大規模施設〕(67.4%)より高くなっている。ただし職員レベルでの接種割合は、施設規模による差はほとんどない。

	①入所者			②職員・スタッフ		
	全 体	小規模施設	大規模施設	全 体	小規模施設	大規模施設
N	88	44	43	88	44	43
実施した	84.1	86.4	83.7	70.5	75.0	67.4
実施しなかった	15.9	13.6	16.3	29.5	25.0	32.6
平均実施人数割合*	67.7	77.4	63.3	65.0	65.8	64.6

*平均実施人数割合 = (受けた入所者数 ÷ 入所者総数)、または (受けた職員数 ÷ 職員総数)

3. 予防接種(ワクチン)の効果

①予防接種の評価

予防接種を実施した施設にその効果を尋ねたところ、8割が「効果があったと思う」と答えている。「どちらともいえない」(17.1%)との回答も2割弱あるが、「効果はなかった」とする施設はない。

こうした傾向についてはいずれの施設も同様で、大半が効果を認めている。施設規模による認識の差もそれほど大きなものではないが、「効果があった」とする割合は〔大規模施設〕(86.8%)の方が〔小規模施設〕(73.7%)を上回っている。

②評価の理由 (FA)

【効果があったと思う】理由としては、49施設から51件が寄せられているが、その大半は「インフルエンザにかかった人がいなかった」「風邪をひいても軽くすんだ」「予防接種をしてから罹患者が減った」という実体験に基づいている。この他、「皆の意識が高まった」という二次的なものも“予防接種の効果”として挙っている。

【どちらともいえない】の理由は10施設から10件が寄せられているが、主な理由は「インフルエンザにかかった人がいなかったの、流行がなかったのか、予防接種の効果のためか判断しきれない」というものである。また、「予防接種をしても風邪をひいた」「予防接種をしなくても罹患者がいなかった」と、予防接種と罹患の因果関係が明確でないことが、評価を曖昧にしている。

◆予防接種の効果について (%)

	全 体	小規模 施設	大規模 施設
N	76	38	38
効果があったと思う	80.3	73.7	86.8
効果はなかったと思う	0	0	0
どちらともいえない	17.1	23.7	10.5
無回答	2.6	2.6	2.6

◆予防接種効果の評価理由(FA)

【効果があったと思う】	51件
・インフルエンザにかかった人がいなかった/少なかった	36
・風邪はひいたがインフルエンザにはならなかった/軽くてすんだ	8
・予防接種を実施してから罹患者が減った/昨年より減った	3
・予防接種をしなかった職員がインフルエンザになった	1
・皆の意識が高まった	2
・施設内で大きな問題が出なかった	1
【どちらともいえない】	10件
・罹患者がいなかったの、流行なしか予防接種のためかわからない	4
・予防接種しても風邪を引いた	2
・予防接種をしなくても罹患者がいなかった	1
・風邪症状はあったが予防接種のおかげで軽くすんだ	1
・その年毎に人数もウィルスが違うので	1
・職員分が確保できなくて風邪をひき入所者に感染した	1

4. 予防接種（ワクチン）を実施しなかった理由（FA）

Q6SQ2(Q6で「実施しなかった」施設) 実施しなかった理由を具体的にご記入ください。

①入所者

予防接種をしなかった理由としては12施設から14件が寄せられた。その中では「ワクチン不足」など“ワクチンに関する問題”が最も多く、次いで「希望者がいなかった」など“入所者の問題”や、「時機を逸した」など“運営上の問題”が挙っており、対応の遅れが主な理由となっている。

②職員・スタッフ

職員・スタッフについては、19施設から21件の理由が挙っている。最も多いのは入所者同様、「ワクチン不足」など“ワクチンに関する問題”である。次いで「希望者がいなかった」など“スタッフに関する問題”が多く、職員の対応の遅れが考えられる。

◆予防接種を実施しなかった理由(FA)

	①入所者	②職員・スタッフ
計	14件	21件
◇ワクチンに関する問題	5件	8件
・ワクチン不足	4	7
・副作用が心配	1	0
・ワクチンが流行する型に合っているか不明のため	0	1
◇入所者／スタッフに関する問題	3件	7件
・希望者がいなかった	2	4
・希望者のみ／個別に実施	1	3
◇運営上の問題	3件	3件
・時機を失った／実施期間の情報が遅かった	2	0
・施設の知識不足	1	1
・個人の健康管理に任せた／生活指導を行った	0	2
◇その他	3件	3件
・インフルエンザにかかった人がいなかった	0	1
・特に理由はない	0	1
・新施設のため／オープンしたばかりで入所者がいなか	3	1

Ⅲ. 来シーズンのインフルエンザの予防の状況

1. 来シーズンの予防接種実施意向

①入所者

入所者に対する来シーズンの予防接種については、今シーズンと同程度の約8割が〔実施意向〕を示している(必ず実施したいと思う51.1%、おそらく実施すると思う31.8%：計82.9%)。

今シーズンの実施状況との関連では、今シーズンに「実施した」施設の9割(91.9%)に〔実施意向〕があり、その過半数は「必ず実行すると思う」(56.8%)と積極的な意向を示している。また今シーズン「実施しなかった」施設でも約1/3(35.7%)が〔実施意向〕を示しており、「必ず……」と積極的な施設は21.4%を占めている。

また、今シーズンに予防接種をして「効果があった」とする場合でも、来シーズンに全施設が接種を考えている訳ではなく、1割弱は「どちらともいえない」と躊躇している。なお、今シーズンの効果について「どちらともいえない」というケースでは、約3/4が来シーズンについて〔実施意向〕がある(77.0%)。

②職員・スタッフ

職員・スタッフに対しては、来シーズンは約7割の施設が〔実施意向〕を持っている(必ず実施したいと思う46.6%、おそらく実施すると思う26.1%：計72.7%)。これは今シーズンの職員・スタッフへの予防接種実施割合とほぼ同程度である。

今シーズンとの関連で〔実施意向〕をみると、予防接種を「実施した」施設の約9割(88.7%)、予防接種の「効果がある」と感じている施設の約8割(82.0%)が来期の予防接種を考えている。

一方、今シーズンに「実施しなかった」施設の〔実施意向〕は約3分の1(34.6%)である。しかし効果については「どちらともいえない」と答えていても、約6割の施設(61.6%)は来シーズンに予防接種を実施したいとの意向を示している。

◆来シーズンの予防接種実施意向 (%)

	①入所者			②職員・スタッフ		
	全 体	小規模施設	大規模施設	全 体	小規模施設	大規模施設
N	88	44	43	88	44	43
必ず実施したいと思う	51.1	45.5	58.1	46.6	38.6	55.8
おそらく実施すると思う	31.8	34.1	30.2	26.1	34.1	18.6
どちらともいえない	15.9	20.5	11.6	21.6	18.2	23.3
おそらく実施しないと思う	0	0	0	4.5	6.8	2.3
実施の予定はない	0	0	0	0	0	0
無回答	1.1	0	0	1.1	2.3	0

◆今シーズンの予防接種実施状況と来シーズンの実施意向 (%)

	今 シーズン						
		①入所者			②職 員		
		全 体	実施した	実施しなかった	全 体	実施した	実施しなかった
N	88	44	43	88	44	43	
来 シ ー ズ ン	必ず実施したいと思う	51.1	56.8	21.4	46.6	59.7	15.4
	おそらく実施すると思う	31.8	35.1	14.3	26.1	29.0	19.2
	どちらともいえない	15.9	8.1	57.1	21.6	8.1	53.8
	おそらく実施しないと思う	0	0	0	4.5	1.6	11.5
	実施の予定はない	0	0	0	0	0	0
	無回答	1.1	0	7.1	1.1	1.6	0

◆今シーズン実施した予防接種の効果と来シーズンの実施意向 (％)

		今シーズンの予防接種の効果					
		①入所者			②職 員		
		全 体	あった	どちらとも いえない	全 体	あった	どちらとも いえない
N		76	61	13	76	61	13
来 シ ー ズ ン	必ず実施したいと思う	55.3	59.0	38.5	50.0	57.4	15.4
	おそらく実施すると思う	34.2	32.8	38.5	28.9	24.6	46.2
	どちらともいえない	10.5	8.2	23.1	15.8	16.4	15.4
	おそらく実施しないと思う	0	0	0	3.9	1.6	15.4
	実施の予定はない	0	0	0	0	0	0
無回答		0	0	0	1.3	0	7.7

2. 予防接種実施意向の理由 (FA)

【入所者と職員・スタッフとも〔実施意向〕】の場合には、大半が「予防接種の有効性」を実感しているためである。また「施設運営上の理由・責任」ということで、「予防接種の実施は施設の社会的責任」と感じている施設も多い。

また、〔実施意向〕の程度は別として、入所者と職員・スタッフ双方に予防接種をするのは、「全員がワクチンを接種しないと効果がない」と考えているためである。そこで、「職員・スタッフの接種費用を会社負担」するようになった施設もある。

入所者、職員・スタッフの【一方または両方とも「どちらともいえない」】と迷いがある場合には、「予防接種の有効性」は認めつつも、「施設運営上の理由」から接種実施にならないようである。特に「介護保険制度の導入で予防接種が自己負担になるため、家族と話し合いが必要」という状況があり、施設サイドで一方向的に予防接種の実施を決定しにくくなっている。このため入所者に対しては、「希望者のみ」実施することになる。

職員・スタッフに対しても、「希望者のみ」が「自己責任」での接種の方向にある。

入所者の状況は別として、【職員・スタッフが「非実施」】の場合は、ワクチンの供給や効果などへの不信感のほかに、「職員は不規則勤務で実施日の特定が困難なため、自主的な接種を薦める」という理由を挙げる施設がある。このように予防接種が職員各自の責任にまかされる場合には、“接種漏れ”などによって施設内での集団感染に繋がらないよう、接種状況のチェックシステムや、予防接種を促すような経済的・時間的配慮が必要と思われる。

◆来シーズンの実施意向の理由(FA)(82件)

【入所者・職員とも〔実施意向〕】	(49施設：49件)
◇予防接種の有効性	31件
・効果を実感／予防接種をしたら発症しなかった／減少した	15
・インフルエンザにかからない／予防のため／集団感染を防ぐ	9
・軽くてすむ／重症にならない	3
・高齢者にインフルエンザは脅威	3
・副作用に対する誤解が減った	1
◇施設運営上の理由・責任	12件
・実施は社会的責任／流行を防ぐためできるだけことはしたい	7
・例年の対策として	2
・昨年園内でインフルエンザのような風邪が流行	2
・今年度から職員・スタッフの接種費用が会社負担	1
◇その他(状況に応じて／医師の指導／会社の意向による／業界の動)	6件
【一方または両方とも「どちらともいえない」】	(20施設：28件)
◇予防接種の有効性	8件
・今回効果があったので／例年通り実施	3
・高齢者は罹患しやすい／合併症が心配	3
・予防のため／介護職員からの感染予防	2
◇施設運営上の理由	14件
・入所者は希望があれば対処	5
・職員は希望者のみ実施／職員は検討中／スタッフは自己責任で	4
・コストの問題／介護保険で予防接種費用が自己負担になるため	3
・ワクチンの不足／不足の場合は入所者優先	2
◇その他(来シーズンの状況／現段階では未定／介護保険の導入で方向)	6件
【職員が「非実施」】	(4施設：5件)
・ワクチン不足が心配	2
・予防接種をしても風邪をひかないとは言い切れない	1
・職員は各自で	1
・予防できるものなら実施した方がよい	1

3. 今シーズンの予防接種と来シーズンの変化

①入所者

入所者に対して今シーズンに予防接種を実施した施設では、来シーズンの〔実施意向〕は、大半が「今シーズンと同程度」(67.1%)であるが、約3割は「実施率は高くなる」(27.6%)と答えている。

施設規模別にみると、〔小規模施設〕ではほとんどが「今シーズンと同程度」(81.6%)であるが、〔大規模施設〕では約4割が「実施率は高くなる」(39.5%)とみており、「今シーズンと同程度」は半数程度であった。

こうした傾向は実際に予防接種を受けた人数レベルでも同様で、約3割が来シーズンには「実施率は高くなる」としている。

また、今シーズンの予防接種で効果が「あった」と感じた場合は、約3割の施設で来シーズンに「実に「実施率はたかくなる」(30.5%)と考えている。しかし、効果について「どちらともいえない」と評価していた場合は大半が「今シーズンと同程度」(76.9%)であり、予防接種の効果を実感することが次のシーズンへの備えに結びついていく様子が明確に現れている。

②職員・スタッフ

職員・スタッフに対しては、来シーズンの予防接種の実施は「今シーズンと同程度」は約6割で、約3割が「実施率は高くなる」(28.9%)と答えている。一方、若干の施設では「実施率は低くなる」(1.3%)と考えている。

施設規模別にみると、〔小規模施設〕では約7割が「今シーズンと同程度」(68.4%)で、4分の1の施設が「実施率は高くなる」と答えているが、これは入所者の場合よりも高い割合となっている。〔大規模施設〕では半数が「今シーズンと同程度」で3分の1が「実施率は高くなる」(34.2%)と答えているが、これは入所者の場合とほとんど変わらない。

予防接種を受けた実人数レベルでみると、「実施率は高くなる」(29.0%)は施設レベルとほぼ同率であるが、「今シーズンと同程度」(64.9%)は施設レベルよりも若干高い割合を示している。

今シーズンの予防接種で効果が「あった」場合の来シーズンの状況は、「実施率はたかくなる」30.8%、「今シーズンと同程度」65.4%と、入所者の場合とほぼ同程度の予測になっている。

◆今シーズン予防接種実施施設の来シーズンの実施状況比較 (%)

		今シーズン実施した施設					
		①入所者			②職員・スタッフ		
		全体	小規模施設	大規模施設	全体	小規模施設	大規模施設
N		76	38	38	76	38	38
来 シ ス ン	実施率は高くなる	27.6	15.8	39.5	28.9	23.7	34.2
	今シーズンと同程度	67.1	81.6	52.6	59.2	68.4	50.0
	実施率は低くなる	0	0	0	1.3	0	2.6
	無回答	5.3	2.6	7.9	10.5	7.9	13.2

◆予防接種を受けた人数レベルでみた来シーズンの実施状況 (%)

		今シーズン実施した施設	
		①入所者	②職員・スタッフ
N		74	62
来 シ ス ン	実施率は高くなる	28.4	29.0
	今シーズンと同程度	68.9	64.5
	実施率は低くなる	0	1.6
	無回答	2.7	4.8

◆今シーズン実施した予防接種の効果と来シーズンの比較 (％)

		今シーズンの予防接種の効果					
		①入所者			②職員・スタッフ		
		全 体	あった	どちらとも いえない	全 体	あった	どちらとも いえない
N		74	59	13	62	52	8
来 シ ー ズ ン	実施率は高くなる	28.4	30.5	7.7	29.0	30.8	0
	今シーズンと同程度	68.9	69.5	76.9	64.5	65.4	75.0
	実施率は低くなる	0	0	0	1.6	0	12.5
	無回答	2.7	0	15.4	4.8	3.8	12.5

4. 来シーズンにおける変化の理由（FA）

来シーズンに「実施率が高くなる」と考えている理由は、これまでの実施経験から「予防効果が高い」ことを実感していることが大きい。また「ワクチンの副作用に対する誤解が減った」「インフルエンザに対する意識の高まり」などが、来シーズンの実施率アップを予想させている。

「今シーズンと同程度」と考えているのは、既に例年の実施率が高く、「毎年全員／可能な限り実施している」という場合が多い。「本人や家族の希望」など施設サイドだけで決められない部分も大きいですが、これは今後の情報提供や啓発、費用負担などによって実施希望が増える可能性がある。

「実施率は低くなる」と答えたのは1施設であるが、これは「接種後の頭痛」という副作用を理由に挙げている。

◆来シーズンにおける変化の理由(FA)

【入所者・職員の両方、または一方が「実施率は高くなる」】	(21施設：23件)
◇予防効果が高い	13件
・効果があったから／発症が少なかった／ワクチンの有効性が上がった	9
・予防／来シーズンが心配	3
・既に100%近く実施	1
◇予防意識の変化	7件
・インフルエンザに対する考えの変化／意識が高まっている	4
・ワクチンの副作用に対する誤解が減った	1
・家族の理解が得やすい／利用者、家族、介護者の安心	2
◇その他	3件
・職員・スタッフの接種費用が会社負担になった	1
・費用の問題(公費負担になれば／職員の自己負担)	2
【両方とも「今シーズンと同程度」】(不明含む)	(31施設：31件)
◇例年の実施率が高い	11件
・毎年全員が接種／可能な限りの実施率	9
・予防効果を高める／職員は介護上必要	2
◇入所者の関連から	12件
・本人や家族の希望を重視／入所者に変化がない	8
・入所者の健康上の問題／配慮	4
◇その他	11件
・現状で問題がない／今まで通り実施	4
・今期は大きなニュースにならなかったため意識が薄れる	2
・インフルエンザに対する関心が大きいため	1
【一方が「実施率は低くなる」】	(1施設：2件)
・職員で罹患者がなかった	1
・職員で接種後に頭痛の訴えが多かった	1

*入所者、職員・スタッフとも「不明」・介護保険制度による費用が問題／・状況による

IV. 治療・予防薬処方による予防接種実施状況

1. 治療・予防薬処方による来シーズンの方針の変化

治療・予防効果のある薬が処方される場合、従来通り予防接種を受けるかどうかの判断について、「変化があると思う」23.9%、「変化はないと思う」25.0%と、それぞれ4分の1程度の施設で何らかの方針が決まっている。最も多いのは「今の時点ではわからない」(47.7%)とする施設であり、半数近くを占めている。

施設規模別にみても同様の傾向を示しており、いずれの施設も25%前後が「変化があると思う」と答えている。

今シーズンの実施状況との関連では、今シーズン「実施した」施設の約2割(入所者23.9%、職員・スタッフ24.2%)が「変化があると思う」と答えている。一方、今シーズン「実施しなかった」場合には、〔入所者〕に対しては42.9%、〔職員・スタッフ〕に対しては23.1%が「変化があると思う」と答えており、入所者への対応面では変化が大きいようである。

また来シーズンの予防接種について〔実施意向〕がある施設では、〔入所者〕〔職員・スタッフ〕とも25%前後が「変化があると思う」と、予防の方法についても前向きな検討をする傾向が見られる。しかし来シーズンについて「どちらともいえない」としている施設では、予防・治療薬と予防接種の関連についても半数以上が「今の時点ではわからない」としており、特に〔職・スタッフ〕の場合は約7割が検討中であることを示している。

◆来シーズンの方針の変化 (%)

	全 体	小規模施設	大規模施設
N	88	44	43
変化があると思う	23.9	25.0	23.3
変化はないと思う	25.0	27.3	23.3
今の時点ではわからない	47.7	45.5	51.2
無回答	3.4	2.3	2.3

◆今シーズンの予防接種実施状況と来シーズンの方針 (%)

		今 シーズン					
		①入所者			②職員・スタッフ		
		全 体	実施した	実施しなかった	全 体	実施した	実施しなかった
N		88	74	14	88	62	26
来 シ ズ ン	変化があると思う	23.9	20.3	42.9	23.9	24.2	23.1
	効果はないと思う	25.0	28.4	7.1	25.0	29.0	15.4
	今の時点ではわからない	47.7	50.0	35.7	47.7	43.5	57.7
	無回答	3.4	1.4	14.3	3.4	3.2	3.8

◆来シーズンの予防接種意向と方針の変化 (%)

		今 シーズン					
		①入所者			②職員・スタッフ*		
		全 体	実施意向がある	どちらともいえない	全 体	実施意向がある	どちらともいえない
N		88	73	14	88	64	19
来 シ ズ ン	変化があると思う	23.9	23.3	28.6	23.9	25.0	15.8
	効果はないと思う	25.0	28.8	7.1	25.0	31.3	5.3
	今の時点ではわからない	47.7	46.6	57.1	47.7	40.6	73.7
	無回答	3.4	1.4	7.1	3.4	3.1	5.3

*「おそらく実施しない」(N=4)省略

2. 予防接種実施方針変化の理由（F A）

インフルエンザ予防方針について「変化があると思う」と答えた施設では、その理由として14件が寄せられているが、「効果があるなら」という条件付の場合が多い。また、「痴呆で予防接種が困難な場合」や注射を嫌う人に対しては内服薬と、対象者によって予防接種との使い分けを考えている施設もある。

「変化はないと思う」と答えた理由として寄せられた11件の中では、「予防接種の方針がすでに決まっている」場合や「かかってからでは遅い」との対応を重視し、予防接種を信頼している場合が多い。また「コストの面で老人保健施設では使用できない」という理由から、内服薬の使用に踏み切れない施設も見られた。

「今の時点ではわからない」の理由としては21件寄せられているが、特に薬のリスクや効果について「情報不足」であることがネックとなっている。また「費用負担」の問題も現時点では不明なため、新薬使用に二の足を踏ませる大きな要因となっている。

以上のように、新薬については内服の手軽さが一番の魅力となっているが、実際に方針が変化するかどうかは、新薬に関する情報提供や特に効果や副作用について実績としての証明されるか、などによるところが大きいと、発売初年度には大きな変化は見られないと思われる。

◆方針変化の理由(FA)

【変化があると思う】（14件）	
◇治療・予防薬の方が効果があると思うので	11件
・効果があるなら／効果のある方を選抜／今年の結果を見て	6件
・痴呆で予防接種が困難な場合により	2件
・予防接種後発熱する人がいる	1件
・希望者があれば注射より薬を希望する人が増える	2件
◇その他	3件
・予防接種実施は労力がかかる／ホームからすすめて行く	2件
・ワクチンが施設負担のため	1件
【変化はないと思う】（11件）	
◇予防接種の方針で決定	6件
・予防接種実施の方針・すでに予防接種を100%近く実施	4件
・発生後では遅い・予防の重要性が高まっている	2件
◇その他	3件
・今年問題が少なかったから／状況に変化がないと思う	2件
・コストの面で老人保健施設では使用できない／自己選択	2件
・医師と相談中	1件
【どちらともいえない】（21件）	
◇新薬について情報不足	9件
・予防薬、治療薬の情報がない／効果のあるほうを選択	5件
・高齢者への副作用が不明	4件
◇費用の問題	5件
・費用負担が不明／保険がきくかどうか	4件
・介護保険の導入に関係	1件
◇その他	7件
・運営会議で決定／施設庁の判断	4件
・嘱託医から指示がある／専門職にヒアリング	2件
・ワクチンは不足することがあるので準備を早くはじめるか	1件

3. 予防接種実施の方針決定者（MA）

各施設において“予防接種の実施”を決定するのは約3/4が「施設長」(73.9%)であり、約半数の施設では「施設医」が関わっている。

こうした傾向は施設規模別にみても同様であるが、特に〔大規模施設〕ではこれら責任者(施設長83.7%、施設医58.1%)が決定するウエイトが大きい。これに比べると〔小規模施設〕では「入所者または入所者の家族」(38.6%)の割合が比較的高く、「施設長」や「施設医」との差は〔大規模施設〕ほど大きくない。このことから、〔小規模施設〕では入所者たちの意向が反映されやすいようである。

◆ 予防接種実施の方針決定者(MA) (%)

		全 体	小規模 施設	大規模 施設
N		88	44	43
1	施設長	73.9	63.6	83.7
2	施設医	52.3	47.7	58.1
3	入所者または入所者の家族	33.0	38.6	27.9
4	事務長	5.7	6.8	4.7
5	その他	19.3	18.2	20.9

V. 感染症に関する要望

1. インフルエンザなどの感染症に関する要望

インフルエンザなど感染症については、31施設から36件の要望や寄せられている。要望内容を整理すると以下のようなになるが、主な内容としては「ワクチンや薬に関するもの」「費用に関するもの」「情報に関するもの」に分類できる。このうち「ワクチンに関するもの」ではワクチン不足の内容にしてほしい、「費用に関するもの」では予防接種料金の無料化・一部補助、「情報に関するもの」では早めの情報提供やマスコミ報道関連が主な内容である。

◆インフルエンザなどの感染症に関する要望(FA)

【ワクチンや薬に関するもの】(13件) <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン不足のないように/ワクチン供給をスムーズにしてほしい 7件 ・必要な人に十分予防薬が行き渡るようにしてほしい 1件 ・副作用のない予防薬/免疫力を高め副作用の少ないワクチンの開発 4件 ・副作用等、安全性の情報公開 1件
【費用に関するもの】(11件) <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種量の無料化・一部補助/公費にしてほしい 7件 ・健康保険の適用を希望 2件 ・ワクチンの料金が高すぎる 2件
【情報に関するもの】(10件) <ul style="list-style-type: none"> ・予防に有効な情報を早めに流してほしい 2件 ・インフルエンザに関する情報を各施設に配ってほしい 1件 ・感染症に関するマニュアルがほしい 1件 ・治療薬について諸外国の正しい情報がほしい 1件 ・ホームページにもっと多くの情報を取り上げてほしい 1件 ・マスコミの過剰報道が困る/マスメディアの取り上げ方に疑問 3件 ・常時厚生省からの情報は来ているので特に希望はない 1件
【その他】(2件) <ul style="list-style-type: none"> ・薬は諸刃の剣なので副作用のみ強調するのではなく自己責任をアピールしてほしい 1件 ・介護保険導入で個人負担となると、受けられない人が出るのでは。 1件

インフルエンザに関する調査

《 報告書 》

2000年4月25日

株式会社 社会情報サービス

SSRI Market Research Dept.

1

医師調査

SSRI Market Research Dept.

3

調査概要; 医師調査

【調査目的】 インフルエンザの診断及び治療現状と新薬の受容度を
図ることを目的とする。

【調査方法】 訪問面接聴取法

【調査地域】 首都圏、京阪神

【調査期間】 2000年1月17日 ~ 2月25日

【調査対象及び回収数】

全体	GP/ 0~19床			GP/ 20~99床	定額制・ 療養型	特養・ 老健	HP/ 呼吸器	HP/ 小児科
	都市部	周辺部						
70票	30	15	15	10	9	6	7	8

SSRI Market Research Dept.

4

医師調査; 調査結果

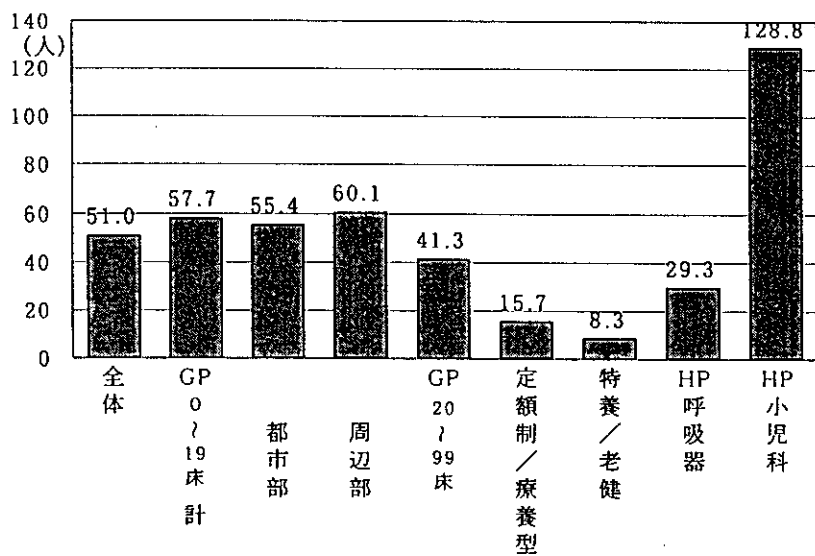
- I. インフルエンザ患者の診療状況
- II. インフルエンザの診断
- III. インフルエンザワクチンの接種状況
- IV. インフルエンザの治療現状
- V. GS4104の評価と可能性

SSRI Market Research Dept.

5

インフルエンザ及びインフルエンザ様患者数

平均患者数



SSRI Market Research Dept.

6

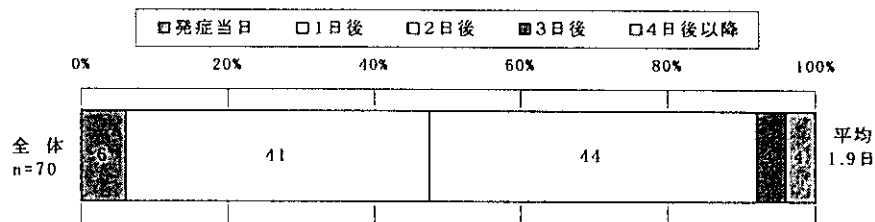
インフルエンザ及びインフルエンザ様患者の年齢構成

(平均/%)	小児 (0~4歳)	小児 (5~9歳)	小児 (10~14歳)	成人 (15~64歳)	高齢者 (65歳以上)	n
全体	7.2	9.6	7.5	41.0	34.7	70
GP(0~19床)計	4.5	11.6	10.1	63.8	10.0	30
都市部	2.0	7.0	4.2	79.5	7.3	15
周辺部	7.0	16.2	16.0	48.0	12.8	15
GP(20~99床)	1.8	5.4	5.3	46.5	41.0	10
定額制/療養型	0.0	0.2	0.7	14.4	84.7	9
特養/老健	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	6
HP呼吸器	0.0	0.0	0.0	49.6	50.4	7
HP小児科	43.8	33.8	20.6	1.9	0.0	8

SSRI Market Research Dept.

7

インフルエンザ発症後の来院日

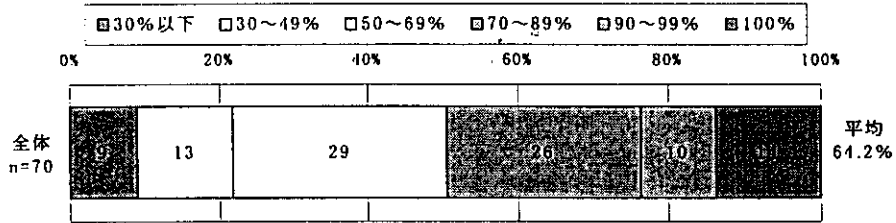


(%)	発症当日	1日後	2日後	3日後	4日後以降	平均(日)	n
全体	6	41	44	4	4	1.9	70
GP(0~19床)計	3	47	50	0	0	1.6	30
GP(20~99床)	10	20	60	10	0	2.1	10
定額制/療養型	11	44	33	0	11	2.1	9
特養/老健	17	50	17	17	0	1.5	6
HP呼吸器	0	29	29	14	29	2.9	7
HP小児科	0	50	50	0	0	1.8	8

SSRI Market Research Dept.

8

36時間以内に来院する患者比率



(%)	30%以下	30~49%	50~69%	70~89%	90~99%	100%	平均(%)	n
全体	9	13	29	26	10	14	64.2	70
GP(0~19床)計	7	13	23	40	7	10	65.5	30
GP(20~99床)	10	40	20	20	10	0	51.0	10
定額制/療養型	0	0	22	11	22	44	84.4	9
特養/老健	0	0	50	0	0	50	75.8	6
HP呼吸器	14	14	43	29	0	0	50.0	7
HP小児科	25	0	38	13	25	0	56.9	8

SSRI Market Research Dept.

9

調査結果

- I. インフルエンザ患者の診療状況
- II. インフルエンザの診断
- III. インフルエンザワクチンの接種状況
- IV. インフルエンザの治療現状
- V. GS4104の評価と可能性

SSRI Market Research Dept.

10